

私たちができる「SDGs プロジェクト」～多文化共生社会を実現するために

SDGs とは、地域が抱える課題を「自分事として捉え、私たちに何ができるか」を考えること。私たちは、岡山学芸館高等学校の皆さんとともに「岡山市でよりよい多文化共生社会を実現するために私たちができること」を検討しました。岡山市に住み、働く外国人の数が年々増加傾向にある岡山市を訪問し、多方面から在留外国人への支援を行っている行政の方々のほか、地域で外国人を受け入れている



地元の方々、そして海外から日本に移住してきた外国籍の人々にさまざまな意見を聞く中で、私たちがぶつかったのは、改めて「多文化共生とは何か」という問題でした。そして私たちは、国籍や文化で人を「区別する」のではなく、一人ひとりのニーズに応じた社会が、誰もが住みやすい理想の社会を実現するのではないかという結論に至りました。

外国籍を持つ人々のニーズを知るには、やはり「言葉の壁」が大きな課題の一つです。近年、技術進歩によってさまざまな翻訳ツールが開発／利用されていますが、仕事においてもそして日常生活においても、互いのことを深く理解するには言語力の向上が必要不可欠であることが明らかとなりました。そこで私たちは、新たに「Language Exchange Game（言語交換ゲーム）」を開発しました。これは、日本語を学びたい外国人が、さまざまな国籍を持つ参加者と「日本語の会話」を楽しみながらも、自身の母語や文化を他の参加者に紹介するものであり、「支援する／される」という関係ではなく、お互いが対等な立場で交流することができるという点で、非常に画期的であると考えています。



このゲームは、岡山学芸館高校の留学生を交えて実施してみましたが、とても楽しく盛り上がることができました。私たちは今後、岡山市内の公民館で、地域に住むタイやベトナムから来られた方々を交え、このゲームを実施する予定です。

日本で長年暮らしている人々の中には、海外からの訪問者の「行動」に驚かされる人も少なくないと思います。ただ、彼ら彼女らの行動の裏には、それぞれが培ってきた文化があります。その文化を知ること、私たちは一人ひとりを深く理解することができるだけでなく、互いをリスペクトすることができるのではないかと考えています。このプロジェクトを通じて、一人ひとりがさまざまな立場の人々に思いを馳せ、地域の抱える課題を真剣に考え実践することで、SDGs を達成する第一歩を踏み出せることを改めて実感することができました。

参加者：【甲南大学】 マネジメント創造学部4年生 増田 夏音、経営学部3年生 前原 庸右
法学部3年生 松尾 朋美、法学部2年生 足立 壮、船橋明日香

【岡山学芸館高校】2年生 児玉 壮吾、矢内 涼翔、劉 丹

指導教員：甲南大学経済学部 教授 石川 路子